

別紙①) 実技指導 OJT および修了評価

ア) 実技指導 OJT…テキストに沿って実技指導を行う	13.5 時間
イ) 事例検討①～⑩についての介護手順	約 1 時間
ウ) 修了評価(実技)テスト	約 30 分
合計	14～15 時間

ア) 実技指導 OJT…テキストに沿って実技指導を行う 13.5 時間

以下①～⑥について、教科書の各ページを参照しながら実技指導を行う

- ① 「こころとからだのしくみと生活支援技術「ベッドメイキング・シーツ交換」
2時間 ベッドメイキング、シーツ交換
- ② 「こころとからだのしくみと生活支援技術「体位変換・移動介助・移乗介助」
2時間 水平移動、上方向への移動
体位変換…仰臥位から側臥位(左右両方)、仰臥位から端座位、立位
2時間 車いすの操作、平地や段差の走行
移乗介助…片麻痺の方への介助(一部介助)、膝折れ防止、
残存機能を活かした介助(ベッドから車いす・車いすからベッド)
1時間 移動介助…杖歩行の介助者への一部介助
視覚障害者の歩行介助
- ③ 「こころとからだのしくみと生活支援技術「着脱介助(基本)」
2.5時間 着脱介助…前開き(上下)座位にて一部介助
前開き(上下)ベッド上で臥位にて一部介助
- ④ 「こころとからだのしくみと生活支援技術「食事介助・口腔ケア」
1時間 座った姿勢での食事介助
口腔ケアの方法
- ⑤ 「こころとからだのしくみと生活支援技術「トイレ介助」「おむつ交換」
1.5時間 ベッドからポータブルトイレへの移動介助をし、トイレ介助を行う。
一部介助が習得できるよう学ぶ。
(羞恥心への配慮・残存機能を活かした介助)
紙おむつと尿取パッドでの介助方法を学ぶ。生徒が習得できるよう練習する。
(羞恥心への配慮・残存機能を活かした介助)
- ⑥ 「こころとからだのしくみと生活支援技術「入浴介助」
1.5時間 浴槽への出入りを含む入浴介助を行う。
一部介助が習得できるよう学ぶ。
(羞恥心への配慮・残存機能を活かした介助)

※①～⑥ **チェックシート提出用** に記載のこと

イ) 事例検討①～⑩についての介護手順

約1時間

事例検討の流れ(2時間)を学習した後、補助資料集に掲載されている事例(田中太郎さん・加藤花子さん)についての演習課題に取り組む。介護手順書を作成し、受講生が介助者となって実際の介護実技を行うことが望ましい。

各事例について3時間を目安とするが、これは手順書を考えて記載する時間を含めるので、介護実技の動作確認は約1時間をあてる。

※①～⑩ **チェックシート提出用** に記載のこと

ウ) 修了評価(実技)テスト

約30分

修了評価①②に示した内容を練習した後、どちらかのテストを行い合格基準に達するまで行う。テスト実施に際しては、参考になるもの(手順書等)は何も見ずに行い、制限時間は5分以内とする。不合格(ABCD評価でのD)となった場合は、指導、練習の後、同じ課題で再テストを行う。合格点になるまで実施すること。

テストの実施時間、不合格の場合の再テスト、振り返り等を含めて約30分とする。

修了評価で使用したチェックシートは**事務局に提出**してください。

修了評価①または②のどちらかを記入してください。

※それぞれの時間配分は目安とし、受講生の理解度に合わせ調整していただいても構いません

※ア) イ) の実施順序については

- ア) →イ) の順に実施
- ア) で单元ごとにテキストで学習した後、関連するイ) の内容を実技で確認する

のどちらでもよいです。